

登倉尋実・岡田守彦・近藤四郎

第25回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1971)

- 2) 等尺性筋張力-筋電図振幅関係の筋長による差異について

岡田守彦

第25回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1971)

- 3) *Tupaia glis* の歩行様式について

岩本光雄・富田守

第16回プリマーテス研究会 (1972)

- 4) マカクの染色体研究

平井百樹・岩本光雄

第16回プリマーテス研究会 (1972)

- 5) マカクサルの寒冷血管反応

岡田守彦・登倉尋実・近藤四郎

第16回プリマーテス研究会 (1972)

神経生理研究部門

時夷利彦・久保田競

二木宏明・松波謙一

研究概要

- 1) 前頭葉の機能の神経生理学的研究

時夷利彦・久保田競・二木宏明・酒井正樹¹⁾

岩本隆茂²⁾

前頭葉が関与している行動の一つである遅延交代反応をアカゲザルに学習させ、その時の前頭葉主溝部、尾状核、視床背内側核などのニューロン活動を解析して「行動の神経生理学的機構」を明らかにしようとしている。

- 2) 随意運動の発現機序の研究

1. 随意運動発現における運動野の役割

久保田競・弓矢治秀³⁾

筋からの情報を断った状態（後根切断）で音を条件刺激として手でバルーンをにぎるという防御条件反応を学習させ運動野の錐体細胞、非錐体細胞と筋活動の相関々係をしらべている。なお、関係する細胞活動がみられた場合、その部位で微弱電流を流しておこる筋運動をしらべ対応させている。

2. 眼球運動発現に関与する中枢機構の解析

松波謙一

自発性および学習性の眼球運動（水平、垂直方向）と相関のある視床内、外部のニューロン活動の性質をしらべ、眼電図（EOG）とユニットとの時間関係から眼球運動に対して果たす役割を考えている。

研究発表 (1971年4月~1972年3月)

論文

- 1) Prefrontal cortical unit activity and delayed alternation performance in monkeys.
K. Kubota and H. Niki
[*J. Neurophysiol.*, 34 : 337-347 (1971)]
- 2) Precentral cortical unit activity and jaw movement in chronic monkeys.
[In R. Dubner and K. Y. Kawamura (eds.)]
Kubota and H. Niki
Oral-Facial Sensory and Motor Mechanisms.
Appleton-Century-Crofts, New York, 365-379, (1971)]
- 3) Saccadic eye movement and neurons in the central gray area in awake monkeys.
Ken'ichi Matsunami
[*Brain Res.*, 38 : 217-221 (1972)]
- 4) Delayed alternation performance and unit activity of the caudate head and medial orbitofrontal gyrus in the monkey.
H. Niki, M. Sakai and K. Kubota
[*Brain Res.*, 38 : 343-353 (1972)]

学会発表

- 1) サルの遅延反応時の視床背内側核と尾状核の細胞活動
久保田競・二木宏明・後藤昭・酒井正樹
第48回日本生理学会 (1971)
- 2) On neuronal activities of prefrontal cortex, caudate nucleus and thalamic dorsomedial nucleus in rhesus monkey.
Kisou Kubota
In a symposium "The frontal granular cortex and behavior" organized by J. Konorski at Jablonna near Warsaw, Poland 2-6 August. (1971).
- 3) サルの随意運動とニューロン活動について
久保田競
シンポジウム「随意運動と脳活動」
第20回日本脳波学会総会 (1971)

心理研究部門

室伏靖子・渡辺允子

浅野俊夫・小嶋祥三

研究概要

- 1) 霊長類における視覚・聴覚に関する各種絶対閾値および弁別閾値の測定

室伏靖子・浅野俊夫・渡辺允子

¹⁾ 京都大学大学院生

²⁾ 日本学術振興会 昭和46年度流動研究員

³⁾ 京都大学大学院生

小嶋祥三・南雲純治¹⁾

益長類、とくにニホンザルの視覚・聴覚に関する閾値測定法を開発し、昭和48年度までに、少なくとも視覚に関しては、比視感度曲線、聴覚に関しては、周波数特性曲線の基礎データを収集する。

2) 学習行動と切断脳²⁾

室伏靖子・浅野俊夫・渡辺允子
小嶋祥三

1. 瞬間的に呈示される光刺激に対する反応時間を指標として、脳梁の反応決定に果たす役割を検討する。
 2. 同時に進行する2種類の強化スケジュール、あるいはChainのスケジュールを、各々独立な2半球に与え、行動統制に働く両半球の機能を分析する。
- 3) 計時行動と計数行動

浅野俊夫

1. DRLL スケジュールによるニホンザルの time estimation の尺度構成。
 2. FRスケジュールと2レバー alternation technique を使って自分の反応数をどれだけ正確に計数出来るかを調べる。
- 4) 弁別行動

渡辺允子

マッチング反応のメカニズムを動因、刺激変化(汎化刺激・一過性の刺激)、脳損傷の操作により変化させ、反応時間間隔、反応率を指標として分析する。

5) 脳の電気刺激、破壊と行動

小嶋祥三

1. 脳各部位の強化性の検討。
 2. 脳内刺激により誘発される行動と強化性の関係の検討。
 3. 脳内刺激を強化者とした学習行動の検討。
 4. 脳の破壊と動機づけ・学習行動。
- 6) 脳内刺激による社会行動の変容

室伏靖子・南雲純治・小嶋祥三

主として個体間距離を指標として、小数群および個体間関係を記述するための研究が基礎的段階を終えたので、今年度は、脳内刺激による個体行動の変容を変数として操作し、今までの研究結果に検討を加える。

研究発表(1971年4月~1972年3月)

論文

- 1) シロネズミにおける脳内強化遅延の弁別学習に及ぼす効果。

小嶋祥三・田中道子・山中祥男

〔動物心理学年報, 20: 97-108, (1971)〕

学会発表

- 1) ニホンザルのボール引き行動におけるダイナミクス

浅野俊夫・鈴木延夫

日本動物心理学会第31回大会(1971)

- 2) ニホンザルの行動力の測定(単独での行動力と集団内での行動力との関連について)

鈴木延夫・浅野俊夫

日本動物心理学会第31回大会(1971)

- 3) ニホンザルのオペラント弁別-予備試験

小川 隆・河嶋 孝・浅野俊夫

日本動物心理学会第31回大会(1971)

- 4) シロネズミの間脳内側部破壊の行動に及ぼす効果

小嶋祥三

日本心理学会第35回大会(1971)

- 5) ニホンザルにおける鏡映図形の弁別行動と側頭葉損傷

渡辺允子

日本心理学会第35回大会(1971)

- 6) ニホンザルの能時弁別学習におけるフリーオペラント事象とディスクリート・トライアル事象の比較

浅野俊夫

日本心理学会第35回大会(1971)

- 7) チンパンジーによる部屋の照明の点滅行動

浅野俊夫・熊崎清則

第16回プリマテス研究会(1972)

社会研究部門

川村俊蔵・河合雅雄

東 滋・鈴木 晃

研究概要

- 1) ニホンザルの分布論的研究

川村俊蔵・東滋・足沢貞成¹⁾

昨年に引き続きニホンザルのポピュレーションを調べ生態学的分布論としての考察を行なった。対象地区は下北及び滋賀、兵庫、三重、福井の4県であり、4県についてはほぼ分布図を完成した。

- 2) 下北半島ニホンザル生息地における除草剤による環境汚染の影響についての生態学的研究

川村俊蔵・東滋・鈴木晃・三戸梅代²⁾・足沢貞成

昨年に引き続き上記の研究を行なったが、本研究は代表者、分担者19名に若干の研究補助員を伴う大がかりなもので、ニホンザルを中心に植物・動物の各専門家が集

¹⁾ 文部技官

²⁾ 本吉良治(京大・文)との共同研究

¹⁾ 京都大学益長類研究所研修員

²⁾ 文部技官